

自己評価 29年度

28年度は緩和措置により外部評価は免除されております。

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より理念は一貫している。理念はリビングルームの目立つところに掲揚し、職員と管理者はグループホームがよって立つところを常に心に銘記しています。	ホームの理念はリビングに掲示するとともに、職員には会議や日々の業務の中で意識を常に持ってもらうようにその都度投げかけている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	創設以来準地区民となり、班長ともなります。町独自の会計制度万雑の対象ともなっており、経費を納めております。毎年クリスマス会も開催している。地域民の認知度は定着しており、町のレクリエーションにも呼ばれます。地域住民は自家栽培の野菜等を持ち込んでくれます。	町会には加入しており、町民としての役割分担を担い、町の行事等にも参加している。ホームのクリスマス会には町民も招待している。散歩の際の挨拶や野菜等のお裾分け等、日常的な交流も行われている。町民の一員としての認知度は高い。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	クリスマス会はオープンハウス様であり、認知症カフェとなります。地区民の介護保険についての素朴な疑問にも答えております。創設以来14年以上経過し、地域全員の人が認知症を理解しています。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の出席が少ないとの外部評価があり、29年度は家族の出席を重点的に取り組みました。それでも2家族以上ということは難しく、1家族と入所者本人ということもありましたが、どちらからも発言はなく、当方からのリードが主でした。	会議は年6回開催している。町会長、老人会会長、民生委員、家族、入所者、行政担当者のメンバーで行われている。出された意見等はホームの運営に活かしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所庁舎が距離的に近く、足を運ぶ事が多い。高齢者支援センター職員は、2か所から推進会議に出席するが、事前に案内状を出し協力関係を築くようにしている。	市役所へは出来るだけ出向き、担当者と相談や意見交換を行っている。グループホーム連絡会にも参加し、運営やサービスについて情報交換を行っている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はない。具体的な行為は、勉強会で周知しています。夜間の玄関施錠はするが、日中は無施錠です。利用者も外に出ようとする人はいません。	職員は、身体拘束について理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は夜間のみである。言葉による行動の制限や抑制にも気を付けるようにしている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修には年1回以上は必ず出席し、出席者はその要旨をレポートして職員に伝達している。職員も年配婦女子が多く虐待はありません。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用している入所者がおり、職員は制度を理解している。以前にも2人いて3例目となる。新しい職員にも十分説明しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結の際には、看取りのこと、急変時をどうするかまで含めて、充分説明している。納得したという書面に署名していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に管理者や職員が本人や家族から具体的な要望をお聞きします。運営に反映させる事は勿論です。毎月1回ケアプラン検討会議を開き、家族等の意見を反映しています。月末には家族にお便りを出しています。	面会時やケアプラン検討会議で家族の意見や要望等を聞くようにしている。また、毎月利用者一人ひとりの1か月の状況を家族に報告している。出された意見等は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不断に意見を聞くことは勿論ですが、月1回のケアプラン検討会議の席上でも、自由討議の時間を設け、自由に発言してもらっています。今年に入浴日のマンパワー不足が指摘され増員しました。	毎月のケアプラン検討会議や日々の業務の中で、職員の意見やアイデアを聞いている。今年度は入浴日のマンパワーを増員された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者は夫婦であり、職員の周辺状況は充分把握できている。どんな項目を評価基準にしているか等、評価表を周知し向上心をもって働けるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は殆ど毎晩夜勤者と共同で介護して、個々の介護力の向上に努め、他のホームへの研修にも積極的に出しています。力量は極めて正確に把握しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常に質の向上を目指している。辰口のGH ゆず、ハッピーホーム、寺井の あおぞら とは密な交流がある。クリスマス会等にはこれらの利用者や職員を招き交流しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	主訴が何であるか、聞きとることを主眼にしています。それが聞き届けられると本人の安心につながります。多くは家族からの聞き取りになりますが、本人にはここが信頼に足るホームであることを、職員を通して見てもらいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の主訴の対応は当然として、家族等も同様の悩みがあり、ある程度の時間をかけて、信頼関係を築きあげていくしかない。運クリスマス会等には職員全員と家族等が会食をして信頼関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時、家族等の切迫度が高い場合、入所の優位順を考慮したり、他の施設を紹介したりしています。リハビリテーション等他のサービスを勧めても、利用に二の足を踏む家族が殆どです。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	9名の入所者は、職員とはある種家族のような関係にある。洗濯物たたみや、簡単な部屋掃除は、協働作業である。意識の上で、家族であることが大切であると思っている。食器洗いは2人の方が行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、毎月の近況報告で、訪問の少ない方には、訪問を促している。各種イベントの情報連絡し、家族の参加を促し、本人の生きていこうとするモチベーションを持続するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	1人の入所者には旧友がかなりの頻度で訪ねてくれます。関係を途切れないように努めています。入所後に出来た地区の友人には、レクレーション等を通じてふれあいの機会を極力設けている。	利用者の友人、知人の訪問がある。地域のイベント等で顔見知りになる方もいる。馴染みの床屋へ行かれる方もおり、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士は、短期間で旧知のような間柄になるが、名前などは覚えられない。時に入所者の関係が悪化した場合は、席替えをして、関係悪化を予防している。現在は概ね良好な状態です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所者がある場合は、訪問して関係性は保つようになっている。また契約終了で出ていくことはありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これらは当然のことであり、今年度は新入所者が2名あり、家族の希望で何か役割を与えてほしいとの要望があり、現在2人で食器洗いをしています。また散歩を多くしてほしいとの要望もあり、本人の希望を聞いて、散歩の是非を決めています。	利用者からは、思いや希望は少ないが、職員は1対1の場面を利用して傾聴し、思い等を聞きだすようにしている。出された希望等は出来るだけ即応し、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、これまでの生活歴を年代順に書いていただいている。この書面がそれ程詳細でない場合は、時間をかけて、聞き取り、利用サービス等を聞いている。これまではデイサービスの利用が殆どですが、当所に入居以降は行っていない。書面完備		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の疲労度、気分をよく見極め、休むかどうか決定している。状態を見て、昼食時食卓に着かせたりしています。有する能力の見極めはかなり難しく、介護度認定の時など、思わぬ運動能力を発揮することがある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン検討会議には、職員の殆どが出席し、各自意見を出している。現状に即したプランであることは、論を待たない。ただ家族側からは積極的な発言が無いのも事実である。	ケアプラン検討会議には、職員、家族が参加し意見交換を行っている。本人がしたい事や望む暮らしを支援するプランを作成するようにしている。ただ、家族からの積極的な意見は少ない。	本人のニーズに視点を置いたプランを作成されているが、もう少し具体的なニーズを取り上げ、具体的な支援内容のプランを作成されることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各人別のファイルがあり、全体としての生活記録のファイルもある。これらは毎日の申し送りに活かされるのみならず、介護計画にも活かされている。ファイルは随時閲覧でき重要な役割を果たしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当ホームには要介護度1~4と多様な入所者があり、病態も多様である。サービスの多様化は、ある程度限界があります。クリスマス会、地区の催しへの参加はサービスの多様化ととらえています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	国造保育園の園児が散歩の途次立ち寄ることが多くなりました。これは前町会長の尽力が寄与していますが、利用者も大変喜びます。これは今後も長く続けていくべきと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約医は10分程度の至近であり、当ホームとの信頼関係は構築されている。また以前よりのかかりつけ医に通院しているものもあり、適切な医療を受けられるように配慮している。	月1回の契約医の訪問診療があり、24時間、相談や指示が受けられる体制が出来ており、適切な医療を受けられるよう支援している。また、今までのかかりつけ医に通院されている方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2名の看護師が気づきを、業務日誌に記載して、周知を図っている。相談も日常的にしている。適切な受診や、看護を受けている。訪問看護の利用は今年はありませんでした。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する時は契約医療機関であり、関係作りはできている。今期は入院者が1人あり、家族は遠方なので、洗濯もの等生活支援をしました。病院関係者との関係は十分できています。		
33	(12)	○重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては、ホームで出来ること、出来ないことを、家族等に詳しく説明している。救急搬送をするのか、しないといった選択肢があることを説明している。看取りを当所でするかどうか入所時にできる範囲でお聞きしています。この点に関して、地域住民との支援関係はありません。	入所契約時に、重度化した場合や終末期の対応について家族に説明している。看取りを希望された場合は、家族、主治医、管理者で今後の方向性やホームで出来る事、出来ない事の確認をしたうえで実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変は日常的に起り、対応は出来る。看護師2名と管理者は病院勤務の経験が長く、指導的立場にあり、職員の実践力は身につけている。職員や顧問にも2名の准看護師がいて、指導的立場です。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	事故発生時のマニュアルは整備されている。24時間管理者が常駐しており、夜間でも7～10分で駆けつけられる。窒息については、吸引器はあり、危急の際には対応できる。かかりつけ医はたつのくちクリニックの先生で10分程度で来ることができます。	緊急時の対応マニュアルは整備されている。急変時には、管理者、近隣在住の職員、契約医の支援体制が出来ている。窒息については、吸引器が常備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	それぞれ契約がなされている。 医療機関 3 歯科医院 1 老健 1 ・たつのくちクリニック ・宝珠記念病院 ・寺井病院 ・山上歯科医院 ・陽翠水(老健)	協力医療機関や介護老人福祉施設のバックアップ機関とは緊密な支援体制が確保されている。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	管理者、代表の家が近く、緊急時には10分以内に駆けつけられる。看護師も同様。緊急時には充分対応できるものとなっている。届出は夜間勤務者1名となっているが、管理者が24時間常駐しています。	夜間は1名の勤務体制であり、近隣には多くの職員が居住しており、緊急時に即応できる体制ができている。また、管理者が24時間常駐している。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害各種避難マニュアルが整備されている。地域の住民に対しては、町会長を通じ、危急の場合の協力を要請している。避難場所は寺島町のマニュアルによるせせらぎ会館が合理的です。その後辰口福祉会館への移動が否か決まらず	年2回、避難訓練を行っている。特に夜間想定訓練を強化している。町会長を通じ災害時の住民の協力を要請している。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	ホーム内の役割分担は整備されているが、地区は小規模で遊動人口といえるものが少なく、何かしら役割を担っているので、当所はあとまわしになる可能性があります。町会長、老人会、自衛消防団は危急の際には駆けつけるといっている	災害時の対応マニュアルは整備され、職員への周知も図られている。特に、土砂災害のリスクが高いので、職員への意識付けを図っている。備蓄品も整備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重は、理念のトップである尊厳を守るに通じる。プライバシーの漏洩は厳に禁止している。退職後も同様です。退職後の守秘義務もあることを言っております。誇りを傷つけない対応は、介護職員が多く年配の心やさしい主婦であり、出来ている	人間としての尊厳を守ることは、ホームの理念の第一であり、職員への徹底を常に行っている。特に、排せつ場面でのケアや言葉使いには、プライドやプライバシーを損ねないように配慮している。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	具体的には、食材の好悪、硬軟の好み、大勢の中に行きたくない、散歩の行き先等々であるが、それらを支援している。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合は入浴があるが、1日の過ごし方は、入所者の希望通りである。午後のレクレーション等は参加を無理強いしません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の支援が薄いまたはいない入所者には、清潔でおしゃれな着衣を用立てている。時に入所者を帯同して、購入することもある。頭髪の整容には、介護者が当たり、散髪も職員が随時します。無料		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理は主婦の職員が多く、家族の看取りを経験したものも多い。加えて商業的な調理の現場の経験者もあり、おいしい食事となっている。もやしのみげとり、豆類のさやはずし等、入所者がしている。食後の食器洗いは利用者2人でしています	旬の食材や郷土料理をメニューに取り入れ、利用者に喜んでもらえる食事の提供を行っている。利用者も出来る範囲で下ごしらえを手伝っている。外食やイベント食など食事を楽しむ支援も行っている。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は全ての健康面に影響を及ぼし、特に意を用いている。摂食量は毎月の体重測定や、日々の状態を見て、栄養とのバランスを考慮し、適量となるようにしている。体重の増減は重要な指針である。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後の必須事項として、実施している。食後の歯磨きは必須である。肺炎を主とする疾患との関連も、職員は理解している。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンは記録して個別に把握できている。夜間にも声かけをして、トイレ排泄を支援している。排泄の感覚が鈍い人が多いが、パターンの把握でかなりの程度自立排泄している。パターン通りにいかない時もある。声かけの時期が難しい	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。トイレへ誘導の際は、プライドやプライバシーに配慮しながら、他者に分からないようにさりげない声掛けを行っている。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェックシートがあり、個別の把握は出来ている。食材、水分補給、運動、時には薬剤や摘便で、排泄に対応している。便秘が原因で、言動に不穏な状況が表出することもあるので、注意している。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は希望通りというわけにはいかないが、種々の制約の中で、順番等個々に希望に沿うように最大限努力している。入浴は1人週2回していますが、不潔になったときや、希望があれば入浴します。人員も増員しています。	個々の希望に出来るだけ対応するようにしている。一人当たり週2回の入浴を支援している。入浴を拒む方には、言葉がけや対応を工夫し、その人に合わせた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良眠を得ることは、次の段階に好影響を及ぼすので、適度な運動、個々人により、昼間の睡眠の防止のため何らかの作業を与えるようにしている。状態により、要求により昼寝の人もいます。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が管理しており、飲み忘れということはない。用法、用量は医師、薬剤師の指示に従っている。副作用、症状の変化には、細心の注意を払っている。量の増減は医師に相談している。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームに入所している意識より、働きに来ているという意識があります。種々の役割を嬉々としてこなしている。歌唱、読み聞かせ等実施している。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のの人々と協力しながら出かけられるように支援している	衣類等の買い物には帯同します。戸外の歩行には転倒の危険があり、気をつけています。家族の方には、面会の折、ドライブ等推奨している。地域の人の協力関係に関しては、各種イベントを通じ、協力をお願いしています。しかし地域の人の協力を得るのは難しいことです。	利用者一人ひとりの希望に沿って外出を支援している。買い物や散歩、イベント、花見等に出かけている。家族と一緒に外出を楽しむ方もいる。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当地は中山間地であり、都市部とは異なる。商店も無く、金子の費消を要求する者はいない。元来金子の費消を悪徳と感じている方が多い。買物に帯同したときなども金子の要求はありません。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在はお便りを書こうとする人は1人おります。電話の要求はまれにあるが、快諾している。一般に家族の方が戸惑うことが多いようである。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	管理者は、以前山野草の会の会員。職員は花好きが多い。玄関、居間等には季節の花を飾り、この方面の出費も多い。トイレの脱臭は機械的で完全である。冬季にはまきストーブと床暖房で快適を心がけている。トイレ便座も暖房便座である。不快な刺激物、刺激臭はない。サ ンタナで過ごさすもいます	玄関、リビング等には、季節の花が飾られ、冬季には床暖房と薪ストーブで心地よい暖かさを提供している。リビングでゆったりとのんびり過ごしている。一人ひとりの生活リズムを尊重し、ゆったりとした居場所づくりを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは畳の間と洋間があり、気に入った方で過ごせるようになっている。玄関と反対側にサンルームがあり、ベンチを配置して、別の空間を設けている。入退室、利用は自由である。複数人で日向ぼっこをしていることがあります		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用家具は、クローゼットのような備え付けのものは無く、使い慣れたものの持込を推奨している。家族や職員が誕生会等の写真を飾り、居心地よく生活している。	馴染みの物や使い慣れた物を持って来てもらうようお願いしている。タンスや写真等を持ち込まれ、居心地よく過ごせる空間づくりを支援している。	
59		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーは勿論、トイレの文字表示、各個室には個人名を書いて分かるようにしている。最初からグループホームとして、建築士と相談して建築している。転倒防止のため、上履きの廃止等している。		